

ヨーロッパ社会・旅行、文芸詩集ご担当者様 6月24日発売/新刊のご案内



鎌倉の出版社

港の人

ご注文は JRC へ

FAX 03-3294-2177

りゅう の りゅう の
龍に吞まれる、龍を吞む

し じん たいけん
詩人のヨーロッパ体験

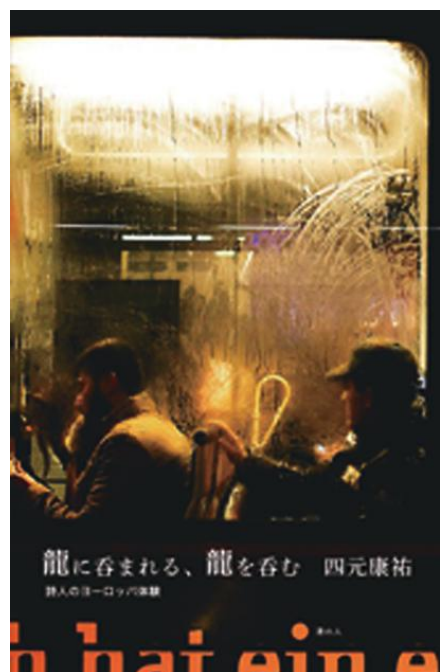
よつ もと やすひる
四元康祐

ISBN978-4-89629-408-8 C0026 四六判変型並製本/本文224頁/定価2200円(本体2000円+税)

「二十五年前、僕はヨーロッパという龍に呑みこまれた」、以来ヨーロッパの腹のなかで暮らし、各地を探訪してきた詩人・四元康祐の傑出したヨーロッパ体験記。

中心と辺境、パブの話、サンティアゴへの巡礼路、頑固で饒舌な人々、難民とヨーロッパの普遍性、フィンランドにみるヨーロッパの本質、戦後ドイツの良心と覚悟、トイレの尊厳、薬局のシンボル、1848年は「諸国民の春」、言葉の話……。ゆたかな感性と深い思索によってヨーロッパという龍を見事に生け捕る詩文集。ヨーロッパ、そして世界のこれからの行方を知るために、龍を吞む。

『日本経済新聞』連載の好評エッセイ 24 編のほか、詩 31 編とコラム 7 編(いずれも書き下ろし)、写真 18 点(カバー写真を含む)を収録。



四元康祐(よつもと・やすひる)

1959年生まれ。詩集に『世界中年会議』(第3回山本健吉文学賞)、『隣の午後』(第11回萩原朔太郎賞)、『日本語の虜囚』(第4回鮎川信夫賞)、『フリーソロ日記』ほか。小説に『前立腺歌日記』『偽詩人の夜にも奇妙な栄光』、文芸批評に『谷川俊太郎学』『詩人たちよ!』。翻訳に『ホモサビエンス詩集』など。近著は『月の光がクジラの背中を洗うとき 48か国108名の詩人によるパンデミック時代の連歌』

番線印	ご注文数	龍に吞まれる、龍を吞む 詩人のヨーロッパ体験 四元康祐
		ISBN978-4-89629-408-8 定価2200円(本体2000円+税)
ご担当:	様	港の人 〒248-0014 神奈川県鎌倉市由比ガ浜 3-11-49 電話:0467-60-1374 FAX:0467-60-1375

*すべての取次からご注文は可能です(JRC経由)。返品条件付き注文扱い